

最優秀作品
(小学生の部)

わたしの町の防はんパトロール

須賀川市立第一小学校3年 後藤 優衣

わたしの町では、防はんパトロールを、毎週土曜日に行っています。町内の組長さん、やくいんさん、いくせいかいの人が協力してこうたいで行っています。わたしのお父さんは、やくいんさんで、お母さんは、いくせいかいをやっているので当番が回ってきます。お父さんかお母さんが当番の時はわたしもいっしょにさん加しています。どうゆうことをするかというと、当番の人と町中を決まった地図のとおり、歩いていきます。

「どんなことをチェックしているの?」と、お父さんに聞いたら、

「あやしい人、あやしい車、きけんな場所、いつもとちがうことがないかを見ているんだよ」と教えてくれました。

わたしもさん加してみて、まいごにならないかと、ふあんになってしまったけど、お父さんがまいごにならないように、手をつないでくれました。なので、

安心しました。

気がついたことが、一つあります。なにかというと、この町はあやしい人、あやしい車がないということです。わたしはあやしい人がなくてよかったな、と思いました。防はんパトロールの、いいところは、この町のみんなのためになる所です。なぜかかというと、あやしい人や、車は、事こや、じけんのげんいんになってしまうからです。なので、毎週のパトロールのおかげで安心して住むことのできる町になっているんだと思いました。防はんパトロールっていいなと思い、この町に生まれてよかったなと思いました。

さいしょは大人の人たちについていだけだったけれど、これからは自分の目できけんがないか、パトロールできるようになりたいと思います。これからもがんばります。

最優秀作品
(中学生の部)

地域の安全とは

いわき市立平第一中学校1年 鈴木 怜

私の家の隣りに住む根本さんは、とてもパワフルだ。声がとにかく大きい。そして明るい。年は八十歳。一人暮らし。私と妹は、この夏休み期間中ずっと、根本さんが自宅の庭で育てているトマトやナスをいただけることを楽しみにしていた。

「隣りの根本ですー」

という声が聞こえると、何をしていても走って玄関先へ向かう。ナイロン袋に入った真っ赤のトマトを受け取ると、私と妹は笑顔でお礼を言う。根本さんも口を大きく開けて笑う。そこで、私の母は根本さんに夕飯のおかずを手渡すのだ。根本さんの夕飯は六時と早いので、常におかずができあがっているわけではない。その時は、私や妹を連れて行き、話をし、六時に間に合うように帰ってくる。それが日課になっている。母なりの工夫で、いただいたナスのみそ炊め、肉じゃが、すき焼き、天ぷらなど、一人暮らしの根本さんが作れないだろうやわらかめのおかずが並ぶ。時には、家族のことより根本さんのことを考えて夕食作りをするくらいだ。

実は、そのようなやり取りはずっと前からではないのだ。令和元年の東日本台風で、夏井川が決壊し、私の家の一階部分も根本さんの平屋の家も大雨の被害に遭った。私達が朝起きた時には目の前の風景が一変していた。根本さんは、増水した時には外の扉がすでに開かず、屋根板を頭で壊して一夜を過ごしたのだそうだ。そしてこれ以上増水したら死ぬ

かもしれないとまで考えたそうだ。その話を根本さんから聞いた時、私も家族も心を傷めた。何かできることはなかったのかと思う毎日だった。急な増水で他を気にする余裕はなかったとは言え、増水前に根本さんを家に呼び入れる声掛けができたのではないかと反省が残る。そして、その声掛けは非常時にだけではなく日頃からの声掛けから始まるものだと気付いた。

そのような体験から、根本さんと私達の交流が続いている。お互いに目になってあげる事、他愛のない会話から、近所どうしの安全となり、その延長線上に私達が住む地域の安全につながっていくのではないだろうか。

根本さんは今日も、小学生の登校班の見守りを毎日続けている。小学生よりも大きな声で「おはよう」と言う姿は、カッコ良いのだ。大きな声であいさつし合える平窪の地域に悪い人はいないと信じたい。私も、学校では規律委員としてあいさつ運動を行っているが、さらに目的意識を持って取り組めたら良いと思う。根本さんのように、私も地域を守る一員でありたいと思う。そして、あいさつを通して安全な地域づくりにつながっていききたい。私がまず、行動を起こせば、みんなが当たり前になり、犯罪を防ぐことができたらいいな、と思う。犯罪を起こす人が恥ずかしいと思うような平窪にしたい。

《補導員の手記》

みんながいるから大丈夫

「夜はずっと、弟と2人だけで家にいるよ。」

当時はまだ小学校高学年だった男児A君の言葉です。

このA君との出会いが、虐待を受けていることも、我が子の非行に苦悩する保護者など岐路に立たされている方に、警察や児童相談所等へ助けを求め支援を受けて欲しいと強く感じた出来事でした。

当時、私が勤務する警察署に、夜中、間もなく小学生になる幼い男児が路上で独り大声を上げて泣いているとの110番通報がありました。

早速、警察官が保護しましたが、男児は泣きじゃくるばかりで住所も名前も言えません。手掛かりがないまま時間だけが過ぎた頃、小学生の男児A君と外国人の母親が来署しました。

A君は保護された男児の兄でした。離婚により母親と弟、日本人の父親とA君が近くで各々生活するも、母親の仕事のため、夜通し弟を父親宅に預けているとのことでした。

しかし、工場勤務の父親も夜勤があり、A君は独りで市販の弁当を幼い弟に食べさせ、添い寝し就寝させてから、自分も眠る生活をしていました。警察署に保護された日は、たまたま目を覚ました弟が家を出てしまったのです。その上、警察署で日本語が分からない母親のため弟が通訳しA君が書類作成の手引きもしていました。

生活安全部少年女性安全対策課
県北少年サポートセンター
主任少年警察補導員

安田 睦美



私はいても立ってもいられず、後日、A君宅を訪れました。置かれている惨状を目の当たりにし、絶句しました。A君はゴミが山積み、雨漏りのため床が抜け落ちた部屋で、野良猫が産んだ数匹の子猫と土足のまま、父親の帰りを待つ生活をしていたのです。

厳しい状況下にあるA君の心情を知り、少しでも悩みを軽減したいとの思いから、中学校最終学年まで、下校中のA君との雑談から役場などと連携した支援に至るまで様々な指導を重ねました。

その間、大好きな弟と母親の帰国、A君の登校渋り、私が高家庭訪問するもA君に居留守をされ落胆するなど紆余曲折がありました。

しかし、しばらくして中学校を訪れると、A君は勉強に部活に励んでいると聞き大変に安堵しました。学校や役場をはじめとする様々な支援がA君の心に響いたのだと確信する一方、私はどのくらいA君の心情に寄り添えたのだろうかとの思いも頭をよぎりました。

A君に指導することはもうないと思い、中学校を後にしようとした時、偶然、A君に出くわしました。生活はどうか尋ねたところ、かつて弟と2人だけだと話していたA君は、学校や警察、役場など多くの温かな支援を知り、最後に満面の笑みでこう言いました。

「みんながいるから大丈夫。毎日楽しいです。」

福島県警察からのお知らせ

登録者
募集中

POLICEメールふくしま

警察から直接あなたに安全安心情報を届けます

○犯罪発生情報・防犯情報

なりすまし詐欺、不審者、盗難情報など

○交通安全情報

交通規制、交通取締情報などを含む

○警察からのお知らせ

4月13日(火)午後4時頃、
XX市XX区内で、小学生に
対する声かけ事案が発生しま
した。
声をかけた人の特徴は
・70~80歳代くらい
・男性
・長髪パーカー
・青色ズボン
・灰色ニット帽
です。ご注意ください。
POLICEメールふくしま
配信元: XX警察署
情報提供: 不審者情報
地域課別: XX



登録方法

① QRコードを読み取りメール送信



メールアドレス

pmf01@uh28.asp.cuenote.jp

新規メッセージ

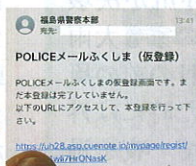
URL: pmf01@uh28.asp.cuenote.jp

を読み取り

空メール

送信

② 自動送信されたメールの
URLをクリック



③ 登録フォームで
希望する情報に☑



登録完了

詳しくは福島県警察ホームページをご覧ください